

# 失業急増が引き金？

## 募る不満に出口なく



待合室の乗客には遅くなって食事が配られた—16日午後9時35分、福岡空港で



福岡空港の北側の一角に駐機した中国民航機  
16日午後4時30分

【北京十六日―ワシントン特派員】北京発ニューヨーク行き中国民航航ジャンボ機乗っ取り事件は、台湾行きを望んだ男の犯行だった。乗っ取り機は、国際線・国内線混乗のジャンボ機で、北京―上海間だけ、中国人に限って国内線の利用を認めている。しかし、六月四日の天安門事件後、利用者が激減、少しでも座席を埋めて、稼ぎたいという民

航の姿勢も、犯人の機内乗り込みにつながった一因といえる。当地では、今回の乗っ取りに、格別な思想的背景はないとの見方が強い。しかし、天安門事件後、「改革・開放」政策の挫折で、経済は厳しい引き締めが続き、失業が急増している。農村から都市へ出稼ぎに出てきた臨時労働者は、再び農村へ押し返されている。こうした農村の「余剰労働力」は五千万から一億人と推計される。また最近、経済計画立案に携わる中国の有力者が、西側外交官に「全国労働者・職員のうち一割は実際に何の仕事もない」と明らかにした。公式の数字には示されていないが、政府機関や各種企業に在籍する一億人のうち一千万人は、れっきとした失業者の群れだといわれている。

国内に金になる働き場所があれば別だが、それが無い。来日する「就学生」の例でも分かるように、彼らは機会があれば海外へ出稼ぎに行こうとする。香港でも台湾でも、どこでもいい。ただ尋常的手段では、普通の中国人にとって出国はきわめて難しい。それにパスポートを取得すると、仕事を失うのが普通だ。そうした事情も「乗っ取り」など非常手段に訴える要因となっているようだ。

近現代史の話。もともと中国はこの種の犯罪に対して銃殺など厳しい対応をとってきた。まだ天安門事件後の政治状況の中で、犯人が中国側に引き渡されれば厳罰が待っていることは、十分予想される。相手がハイジャック犯だということを第一に考えて事態を処理するのは、当然だろう。その大前提に立つたうえでなお、犯人が政治亡命を主張した時には、難しい問題が浮上してくるようになる。六・四以降、せっぱつまった「脱出願望」が、中国民衆の間には広がっている。それを実感できるだけに、やりきれない思いだ。

民主化の逆行が原因  
平松茂雄・杏林大教授（中国軍事問題）の話。詳しい状況はよくわからないが、ハイジャック犯人が中国の知識層の人だとすると、気持ちよくわかる。天安門事件以降、中国政治は急速に後戻りしており、特に軍は毛沢東時代の文化大革命にも似た状況になりそうな気配すらある。民主化を求めた学生、知識人にとっては、暗黒の時代ということになる。特に、一度、民主化が進みかけた後の、逆行だけに、逃げ出したい気持ちは当然起きるだろう。

台湾との経済格差が広がる一方では、これからも台湾行きをめざした事件は多発するだろう。中国は十六日から人民元の為替レートを二％も切り下げた。日本、韓国、台湾などの差はこれで一段と広がった。今回の「乗っ取り」は、今後、出稼ぎ難民の急増を予告するものかもしれない。

亡命求めれば問題に  
野村浩一・立教大教授（中国）の話。天安門事件以後、民

命しようとした四、五人の犯人が中国民航機に乗っ取ったが、逮捕され、銃殺刑となった。八八年五月十二日、福建省アモイ発広州行き中国民航機が中国青年二人に乗っ取られ、台湾の空軍基地に着陸した。二人は台湾への亡命を求めたが、同

中国機の主な乗っ取り事件  
八二年七月二十五日、西安発上海行き中国民航機が中国人五人に乗っ取られた。犯人は台湾へ行くよう要求、機内で小爆発を起こしたが、乗客らが取り押さえた。  
八三年五月五日、瀋陽発上海行き中国民航機が六人の中国人グループに乗っ取られ、韓国の米軍基地に着陸した。台湾への亡命を求めた六人は韓国で有罪判決を受けた後、台湾へ引き渡され、送還を求めているが中国政府は韓国政府に抗議した。  
八六年八月下旬、香港紙の報道によると、遼寧省で韓国へ亡命しようとした四、五人の犯人が中国民航機に乗っ取った。八八年五月十二日、福建省アモイ発広州行き中国民航機が中国青年二人に乗っ取られ、台湾の空軍基地に着陸した。二人は台湾への亡命を求めたが、同